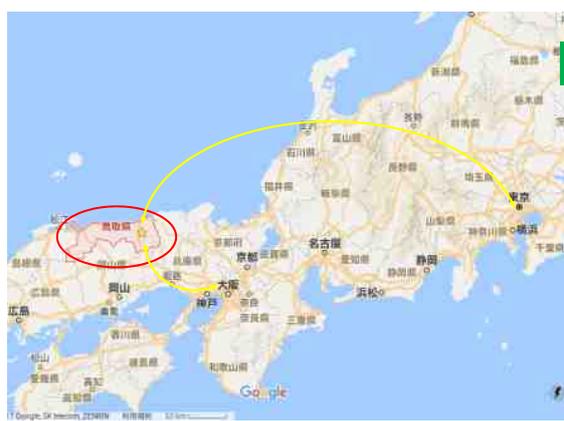


～鳥取県八頭町&八頭イノベーション・バレーの創設に向けた取組について～



八頭町の概況



都市部までの所要時間

- 東京-
飛行機で1時間15分
(1日5往復)
- 大阪-
特急列車で2時間15分
(1日7往復)

八頭町の概況



鳥取県八頭町

位置 鳥取県の東部
人口 16,985人
高齢化率 32.0%
※H27 国勢調査
地勢 面積 206.71 km²
面積の約8割が山林

八頭ブランドの確立



・特別栽培米「神兎」のブランド化 (H29～)

神兎は、八頭町産米の頂点を目指す米です。生産者お互いに圃場で栽培状況を見比べ、栽培技術と品質の向上に努めています。鳥取県特別栽培認証に基づき、より厳しい栽培基準を設定しています。
【化学肥料9割減、農薬6割減】



花御所柿祭りの様子



・「こおげ花御所柿」のGI(地理的表示保護制度)登録、商標登録 (H30.12)

こおげ花御所柿は鳥取県因幡地方にのみ栽培され、そのほとんどが「八頭町」で生産されている、非常に珍しい柿です。肉質はち密で果汁が多く、糖度は甘柿の中でも最高といわれています。

若桜鉄道観光列車運行 (H29.3)



・若桜鉄道株式会社による若桜線は、昭和62年(1987年)10月14日に開業。
・旧国鉄の若桜線を引き継いで運営する鉄道会社で、同年8月6日、鳥取県・八頭町・若桜町・鳥取市などが出資する第三セクター方式で設立。

- 営業概要
- 営業キロ: 19.2km
- 所要時間: 約30分
- 駅数: 8駅(有人1、無人7)
- 運行区間: 郡家～若桜間(一部JR鳥取駅へ乗り入れ)
- 運行本数: 10往復/日(7往復がR線へ乗り入れ)



【隼駅】

スズキバイク
隼の聖地

【隼駅まつり】

8月第1週日曜日開催
2300台超の
オートバイが集合

【人口の推移と将来推計人口】

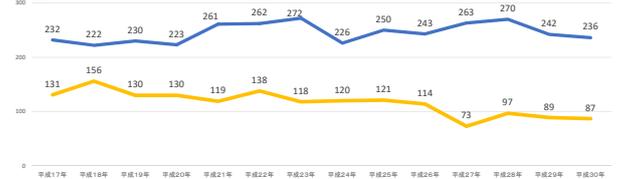
- ・人口減少が継続。2040年には14,000人を切り、2060年には9,000人を下回る見込み
- ・65歳未満の減少が非常に大きく、65歳以上人口も2025年をピークに減少。



【人口動態の推移】

- ・自然増減、社会増減とも減少傾向が継続

自然増減(出生・死亡)



社会増減(転入・転出)



空き公共施設を活用した地域活性化

- ① 隼小学校 H29年廃校 ⇒ 隼Lab.へ
- ② 船岡中学校 H27年廃校 ⇒ リキール工場へ



空き公共施設を活用した地域活性化

- ③ 大江小学校 H29年廃校 ⇒ 里山リゾートホテル「オオエバレーステイ」へ
- ④ 安部小学校 H29年廃校 ⇒ 文化・創造拠点施設へ



地域課題イノベーション

考え方

○拠点施設「隼Lab.」の整備に加え、誘致企業の魅力にもなるよう、町全体で、新たな価値をつくるイノベーターと共創する町をつくることを目指し、地域課題のイノベーションにつながる新たな取組の積極的な推進

- ・民間事業者と連携し、自動運転の実証実験を実施。企業誘致や地域内における移動・交通の課題を解決できるような取組を検討
- ・プログラミング教室の実施など学校と連携した取組



隼小学校

平成6年竣工
↓
平成28年度末閉校

鉄筋コンクリート造 3 F 建
延べ床面積約2,100㎡

隼Lab. 整備財源・運営体制

財源

	経費	財源
設計監理	13,965千円	地方創生拠点整備交付金
施工(2階、3階等)	131,210千円	(1/2、補正予算償充当可)
施工(1階飲食、物販スペース以外)	37,460千円	地方創生拠点整備交付金(第2回募集)
		(1/2、一般補助施設整備等事業償充当可)

運営体制

	運営主体	備考
①2階-3階等	株式会社シーセブンハヤブサ	・施設を無償で貸与 (運営開始前までに議案提出予定)
②1階 (地域利用スペース)		※②については、使用に係る調整を運営協議会で実施。

隼Lab.運営会社 (株)シーセブンハヤブサ概要

会社名	株式会社シーセブンハヤブサ ※事業内容が隼Lab.の運営のみに止まらないことから、会社スローガンである、「挑む、活かす、生み出す、続ける」に加え「熱狂」、「変化」、「共同体」という言葉の英語訳「Challenge」「Culture」、「Create」、「Continue」、「Crazy」、「Change」、「Community」の頭文字を取って命名
設立	平成29年4月3日
資本金	1,500万円
出資者(株主)	隼アクシス SBヒューマンキャピタル(株) 隼Aoi Pro. 隼トリクミ ネクストソフト(株)
代表者	古田琢也 (隼トリクミ代表取締役)
ミッション	地域の価値を最大化し、新たな産業や人材を生み出し 日本の未来のモデルになる田舎をつくる。
スローガン	挑む、活かす、生み出す、続ける。
事業内容	挑む : 地域活性化事業(隼Lab.運営等) 活かす : 地域資源価値創造事業(ふるさと納税等地域物産販売支援等) 生み出す: 起業家・人材支援事業(インキュベーション施設運営、起業家支援等) →こうした取組により、事業を発展的に「続ける」

新たなまちづくり拠点
“隼Lab.”の取組

運営会社
株式会社シーセブンハヤブサ

公民連携コミュニティ複合施設

	カフェ/ショップ
	レンタルスペース
	パブリックスペース
	ワークスペース

カフェ、ショップ



レンタルスペース・パブリックスペース



ワークスペース

【コワーキングタイプ】



【シェアオフィスタイプ】



19

取組の状況①

【年間約40,000人が来場、施設内就業者約80名】

- 飲食店舗を集客装置としつつ、様々なイベントやスクールを開催。
「隼にちようマーケット」や「隼Lifeschool」など、隼Lab.らしさ、風景を作るようなイベントを自社でも開催。
- 14社の入居企業と多様なコワーキングスペース利用者が交わる。
- 地域住民の交流拠点かつ、ビジネスの拠点として運営。



20

取組の状況②

【起業創業10件（2017年12月～）】

- 出資協力企業等による金融、web、デザイン等多方面からのサポート。
- また、そのリソースを活かして経営スクールを開催。
- 事業者の集積、ワーキングコミュニティの拡大を目指す。



21

取組の状況③

【経営スクール「隼アカデミー」の開催】

- 自社の成長戦略、事業展開を考える、半年間の経営スクール
- メンター制度による伴走支援
- 講師は全国の一線で活躍する経営者
- 地域金融機関の鳥取銀行、とっとりキャピタルによるバックアップ
- 対象者：次のステップへの成長を目指す起業家、二代目三代目の経営者等
- 参加人数：1期は15名の募集に17名、2期は10名募集に対し11名が参加



22

取組の状況③

【町とともに取組む事業】

- 働く場所と住まいの情報をワンストップで提供できる強みや、民間の情報発信力を活かした移住支援。隼Lab.入居企業の社宅としての利用など、働き方の選択肢が増えたことによる移住も。
- ふるさと納税支援では、新たな発想での返礼品企画や情報発信で、町の魅力を外へ発信していく。



23

なぜやるのか

まちにチャレンジを生み出し、イノベーションを起こす。

中山間地域の課題解決に取り組み、新たな地域のあり方を提案する。

この町に育つ子どもたちの未来の選択肢を広げる。

24

日本の未来のモデルになる田舎をつくる

そのために今、未来への投資を。

